

佳作

私達の国の思いやり

東京都 学習院女子高等科一年 武石 真奈

今年の夏休み、私は早々に大きな失敗をしてしまった。

電車の中に携帯を落としてしまったのだ。インターネットが発達した現代社会の中で、携帯を落とすということは自分のみならず多くの人々の個人情報さらけ出すということである。もちろん私は暗証番号と指紋認証でロックしているため、簡単に中身を見ることができるとは思えない。しかし、機器に強い人は山程いて、携帯のロック機能ははずせる人も大勢いそうだ。個人情報を目的にしないとも中のチップを抜きさえすれば自分が使うあるいは売ることだって簡単だ。こんな風に携帯の中の情報を見る見ないに関わらず、自らの利益のために使うことはいくらでもできる。私の父も以前、出張をした際に携帯を盗られて痛い目を見ていた。海外だったため、解約や再手配など思わぬ労力や時間、費用がかかったらしい。

私が携帯を落としたのは夜の九時頃。状況としてはこうだ。電車に座っていた私を挟んで立っている男性一人

と隣に座っている男性一人がもめだした。それに動揺した私は降りるはずの駅の一つ手前で車両変換をしようとした。どうやらその時に落としたりらしい。しかし、私はそれに気づかなかったのだ。移動後、鞆の中を確認した時、携帯がないことに気がついた。私は急いで電車を降り探したがホームにはなかった。ひよっとして線路の上に落としたのではないかと思いい、駅員さんに探してもらった。駅員さんは忙しい中、丁寧に二回も探してくれた。しかし、ここにもなく、遺失届を出して公衆電話から親に連絡した。実は私と母は最寄り駅で落ち合うことになっていた。約束の時間を大幅に遅れた私を心配した母は、携帯のGPS機能で位置を特定し、その駅まで行ってしまっていた。携帯はるか彼方に行っていたのに私はずっと手前にいたのだ。やっと母と連絡がついた私は二時間経って無事に会い、帰宅した。帰宅後、地元 of 交番へ行き、遺失届を出した。両親は携帯を失くした時の対応を調べてくれたり、駅の忘れ物センターに何度も電話をかけてくれた。長い一日が終わり日付が変わる頃、持ち主不在で遠くの駅に行った携帯がそのまま留まっていることが分かる。つまりその駅で落し物として届けられていたのだ。

この事で私が何に感動したのかというと、これに関わった全ての人の対応、心意気、そして駅の落とし物の管理システム、すべてに通ずる思いやりだ。

まず第一に私の携帯を拾ってくれた方が私利私欲のために使わず届けてくれたこと。

次に降車駅で線路に落ちていないか探してくれた駅員さん。彼らはこの忙しい時間帯に電車がこない合間を見計らいながら何度も探してくれた。遅い時間にも関わらず、いらいらした様子も見せないで優しい口調で対応して下さった。ないことが分かると「お役に立てなくてごめんなさい」と謝ってさえくれた。悪いのは私なのに。

そして警察の方。動揺して焦る私に冷静に対応して下さいとでも安心した。今後どう行動すべきか、的確なアドバイスを下さった。

JR 駅での落とし物は沿線毎に一括して管理され、ここに問い合わせればある、ないがすぐ分かるようになってる。インターネット社会となって様々な問題もあると同時に受ける恩恵も計り知れない。

忘れてはならないのが両親。夜遅いため心配させた上に、私のため必死に電話やインターネットで調べたりしてくれた。そのおかげで見つけたということを感じしている。

今回のことで日本の民度というべき心意気や思いやり、技術を実感させられた。もし落としたのが日本でなかったらきっと手元に帰ってこなかったに違いない。先述のように父は海外で携帯を失い戻らなかった。日本で携帯を落とした母は誰かが交番に届けてくれて手元に帰って

いる。物を失くして手元に戻る。これは当たり前のようだが本当にすごいことだと思う。本来なら落とした人の責任で拾った人に届ける義務はない。私利私欲のために使わずとも、忙しいから、と無視することもできる。しかし日本では高い確率で落とし物が返ってくる。これは相手を思いやる心なしでは成立しない。インターネットが発達した現代、昔と違って人と人との関わり合いが減っていると言われるが、今でも日本人には人思いやる心がある。思いやりは人を幸せにさせる。今回のことで私はとても幸せな思いをした。私はその思いやりに感動した。